岡山ものづくりPR

初の「テクノロジー展」開幕

県と県産業財団

EVやロボット 143社販路拡大狙う

岡山県内のものづくりの技術をPRする「おかやまテクノロジー展」（県、県産業振興財団主催）が9日、岡山市北区大内田のコンベックス岡山で始まった。岡山を機械加工産業の集積地として内外にアピールし、地場企業の販路拡大につなげる狙いで初めて企画した。県によると、中四国地方では最大規模の加工技術展示商談会で、10日までの期間中、大手自動車部品や重工メーカーのバイヤーら約5千人の来場を見込んでいる。（森元俊一朗）

自動車や電子機器部品、医療器具製造など、地場や県内に製造拠点を持つ143社・団体が出展。各社は、100分の1ミリの誤差で複雑な形状に切削した金属機械部品を展示したり、金属製パイプの一部を細くする鍛造技術を動画で紹介したりしてバイヤーに売り込んだ。

金型製造などの中原鉄工（同市中区雄町）の中原成始郎社長は「当社の精密加工技術をアピールし、新たな取引先を見つけたい」と話し、兵庫県姫路市の自動車用樹脂部品メーカーは「発注先として自社にない技術を持つ業者を探しに来た」と会場を回っていた。

岡山県内のものづくりの技術をＰＲする会場

会場には、岡山県内の自動車部品製造業者など産官学が連携して開発した電気自動車（ＥＶ）の試作車「ＯＶＥＣ（オベック）－ＯＮＥ（ワン）」を出品。来場者は車輪に組み込んだモーターで走る技術に見入っていた。建設機械部品メーカーがデモンストレーション用に造った重機型ロボット「スーパーガジラ」も展示された。

同展に合わせ、これまで県などが個別に行っていた、中小企業対象の「経営革新アワード」表彰式や基調講演（9日）、「ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」（10日）、「広域商談会」（両日）など7事業を同時に開催した。

県によると、ものづくり関連の大規模な展示商談会は東京や大阪に集中し、地方では珍しいという。2016年度以降も継続開催し、中四国一の展示会として定着を目指す。

本社HPに動画

ミクロ推進協が初審査会 ―― 47社 製品性能紹介

おかやまテクノロジー展の会場では、精密生産技術の産業集積を目指す産学官組織「ミクロものづくり岡山推進協議会」が初の作品コンテストを開き、地場企業の技術力を発信した。

同展出展企業のうち、液晶製造装置メーカーや精密板金加工業など47社が参加。それぞれのブースに、無機ＥＬ技術で製造した薄い発光シートで作った折り鶴や、薄さ0・1ミリ以下の樹脂パイプといった製品やサンプルを並べた。希望した14社はステージでプレゼンテーションも行い、製品の性能を紹介した。

ブースで来場者に自社製品を説明するコンテスト参加企業

コンテストは来場者が1人1票を投票。得票上位から大学や産業支援機関、金融機関でつくる審査会が技術力や独創性などを基準に10点を選び表彰する。

投票は10日正午まで。同日午後3時半から会場で表彰式を行う。（洞井宏太）

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。